

会 議 録

1 会議名

令和3年度 第7回高土区地域協議会

2 議題（公開・非公開の別）

(1) 報告事項（公開）

・「雪まつり（キャンドルイベント）」開催による地域交流・地域活性化事業について

(2) 自主的審議事項（公開）

・旧高土スポーツ広場（旧高土中学校跡地）の活用策について

○自主的審議のまとめ方について

3 開催日時

令和3年12月8日（水）午後6時30分から午後7時55分まで

4 開催場所

高土地区公民館 大会議室

5 傍聴人の数

なし

6 非公開の理由

なし

7 出席した者（傍聴人を除く）氏名（敬称略）

・委員：青木正紘（会長）、上野秀平、玄蕃郁子、杉田一夫、高橋清司（副会長）
立入真太郎、田中利夫、塚田春枝、樋口里美、日向こずえ（副会長）、
松山公昭（欠席1人）

・事務局：中部まちづくりセンター 小林センター長、藤井係長、山崎主事

8 発言の内容（要旨）

【山崎主事】

・会議の開会を宣言
・上越市地域自治区の設置に関する条例第8条第2項の規定により、委員の半数以上の出席を確認、会議の成立を報告

【青木会長】

・挨拶

【山崎主事】

- ・上越市地域自治区の設置に関する条例第8条1項の規定により、会長が議長を務めることを報告

【青木会長】

- ・会議録の確認者：高橋副会長

次第2 議題「(1) 報告事項」の『雪まつり』(キャンドルイベント) 開催による地域交流・地域活性化事業について」に入る。事務局より説明を求める。

【山崎主事】

前回の地域協議会において、雪まつり事業の進捗状況や地域との関わりについて確認したいとの要望があったため、本日は実行委員会の方にお越しいただいた。

塚田実行委員長より、説明願う。

【塚田実行委員長】

- ・挨拶

今年度も地域活動支援事業で採択いただいた雪まつり事業について、取組状況の中間報告を行う。

まず実行委員会としては、これまでに3回ほど会議を設けており、来年2月26日(土)の開催に向けて準備を進めている。

会議では、高士地区のキャンドルイベントとして、「灯の回廊」に参加するか否かを、まず検討した。

昨年度は最終的には規模を縮小して参加したが、コロナ禍のため、検討の段階では「不参加」といった話も出ていた。

ただ、市から強く参加を勧められたため、検討の結果、今年度も「灯の回廊」に参加することとした。

今後の情勢にもよるが、現在の状況であれば昨年度と同様に、テイクアウト中心で感染対策を徹底して開催したいと考えている。

昨年度と若干違う点としては、「高士マルシェ」の飲食ブースと、竹灯籠やその他の装飾関係の場所を入れ替えることを計画している。

また、これまでには「高士マルシェ」に出店いただく店舗との調整、竹灯籠作成に向けた資材の発注等のほか、地域の団体とも話をしている。

例年お願いしている当日の雪行灯作成やボランティアについては、今回も地域の皆

様から参加いただきたいと考えている。

来週の振興協議会役員会にて概要を説明し、年明けに開催される振興協議会にて、各町内会長宛てに依頼文を出す段取りとしている。

ボランティアについては例年、当日の午後 1 時頃に各町内 2 人程度から来ていただき、雪行灯を作っている。だが、町内会長との話の中で、準備終了後そのままイベントに参加できないかといった提案があったため、今年度は準備の開始時間を遅らせ、その流れでイベントに参加できるよう見直した。

また、昨年度実施しなかった婦人会の振る舞いについては、今年度は「テイクアウトであれば」とのことで、現在、検討いただいている。

次に花火についてである。

地域活動支援事業のヒアリング時にも少し話をしたが、例年、北方に打ち上げ場所を設けていたが、耕作者とトラブルもあったため、今年度は南方で打ち上げる方向で調整している。

花火業者からも現地確認をしていただき、打ち上げ可能との回答を得ている。地元住民や町内会長にも話をし、概ね了解を得ている状況である。

打ち上げ時間についても、できるだけ会場に長居しないようにするため、時間を早める予定である。

また、竹灯籠の作成については、例年年明けより自分を中心として有志を集め、毎週土日に 1 か月ほどかけて行っており、今年度も正月明け頃から進めていく。

最後にチラシの作成については、イベントの 2 週間程前に折り込みができるよう準備を進めていく。

年末から年明けの 2 月にかけて、どんどん準備が加速していくことになる。地域住民からも協力いただきながら、進めていきたいと思っている。

【青木会長】

今の説明に質疑を求める。

【松山委員】

1 点目。「灯の回廊」は他の地区と一緒に行うものだと思う。

昨年度は不参加の案も出ていただようだが、今年度はどのように考えているのか再度確認したい。

「灯の回廊」は上越市内全域に広報されるものと思うが、もし高士地区が参加せず、

地区内のみでの開催とした場合、地区内のみでの広報となるのか。

自分としては区外にも積極的に案内を出して、集客してもらいたいと思っている。

2 点目。先ほどの説明の中で、トラブルにより花火の打ち上げ場所を北方から南方に移したとの話があったが、どのようなトラブルがあったのか教えてほしい。

3 点目。今後をどのように考えているのか確認したい。

【塚田実行委員長】

1 点目の市で開催する「灯の回廊」についてである。

「灯の回廊」自体は、安塚区・大島区・浦川原区・牧区・高士地区・名立区にて、同日に行うキャンドルイベントの総称である。

市の観光交流推進課が音頭を取り、大判のポスターやパンフレットを作成して広い範囲で広報されているものである。

昨年度、参加を懸念した理由としては、新型コロナウイルスが流行っている状況の中で、自粛ムードもありつつ、外部から人を呼び込むことはどうかと考え、広い範囲で広告を打っているイベントからは離脱させてもらったほうがよいとの考えに至った。

だが、それは叶わなかったため、途中からホームページに「高士地区は、今年度は地域限定のイベントとさせていただきます。地区外からのご来場はご遠慮ください」と掲載した。

元々、我々のイベントは高士地区を広くPRする趣旨があるため、どんどん市外・県外に周知を図れるようなツールを活用していきたいと考えている。今年度は、そういった趣旨に立ち返って行いたいと思っている。

2 点目の花火の打ち上げ場所の変更については、これまで北方の耕地内で花火を打ち上げるに当たり、耕作者より同意をいただいて実施していた。

やはり花火を打ち上げると、火薬が入っていた殻のごみが落ちるため、毎年イベントの翌日に周辺を歩き回って回収していた。

しかし少雪等で雪がなかった場合などは、田んぼに落ちたごみを見付けられないことがある。

そういったごみが田んぼに残っていた場合、春先に耕作をする時に、機械を傷める懸念があるため「もうやめてほしい」との話になった。

例年であれば田んぼの畦道から眺めた程度しか拾うことができなかったが、昨年度は積雪が多かったため、スキーを履く等して、歩き回って回収した。

すると、これまで以上にごみがあり、「こういうことだったのか」と理解した。

そういったことが2年ほど続いたため、花火の打ち上げ場所を移すに至った。

3点目の来年度以降の予定については、まだそこまで話を詰めていない。

自分の個人的な思いとしては、やはり岩の原葡萄園の会場で行うのであれば、いつもの北方耕地で打ち上げるほうが1番見えやすく、理想的だと考えている。

理解を得られるのであれば、またそちらで打ち上げられればよいと思っている。

仮に、その思いが叶わなかった場合、仲間との話の中では、この際、花火の打ち上げ場所を地区内の持ち回りにしても面白いと思った。

実際にどうするかについては、今後、改めて検討していきたいと思っている。

【松山委員】

花火の殻ごみは、かなり広範囲に飛ぶのか。

【塚田実行委員長】

花火の号数、大きさにもよる。

昨年度拾った感じでは、風向きもあるが直径500メートル程の範囲で広がっていた。

北方の耕地は田んぼが広いため、昨年度は7号という少し大きなサイズの花火を打ち上げることができたが、南方の耕地はそこまで広がらないため、大きさは若干小さくなる。

だが、その分、数を多く上げることができ、また、例年よりも高く打ち上げてほしいとお願いしている。

花火の号数は小さいが、高く打ち上げれば、その分、風に吹かれて広がる範囲も若干広くなると思っている。

北方の岩の原葡萄園の砂利の駐車場辺りから見た場合、上十二ノ木の森等もあるため、よく見えるよう、打ち上げる高さを調整してもらえないか、現在相談しているところである。

【高橋副会長】

昨年度、花火の後片付けに大変苦労されたとの話を聞いている。

後片付けにもボランティアを集めて、実行委員の人たちの労を軽くできないかと思ったが、どのように考えているか。

【塚田実行委員長】

イベント終了後、まずは岩の原葡萄園の事務所前の広場を開けなければならない

め、そこは例年、実行委員会だけでなく、消防団からも協力いただいている。

またテント等はレンタルを利用しているため、業者がその日の晩に回収に来ている。

その他、雪行灯の中の紙コップの燃えかすや竹ドームの処理等については、翌日の午前中に行っている。

今年度の降雪具合にもよるが、人手が欲しいときには、そこも含めて地域の方から協力いただけないか、来週の振興協議会の役員会で伺いたいと思っている。

【塚田委員】

年明けから準備をして本当に大変だと思うが、スタッフの人たちは一生懸命にやっております、本当に頭が下がる思いである。

自分は毎年イベントに行っているが、工夫を凝らして毎年変わっている。

だが話を聞くまでは、花火の後片付けにそこまで苦勞されていることを知らなかった。

自分も「翌日の片付けを手伝う」と声をかけたことがあるが、遠慮深いのか、要請が来なかった。いつでも気軽に声をかけてほしい。

【日向副会長】

自分も昨年度、初めて花火の後片付けの大変さを知った。

また、打ち上げ場所の許可取りに大変尽力されていたことを、自分で事業を行ってみて初めて分かった。

花火の後片付けのごみ拾いも、地域住民に協力を投げかけてよいと思う。

【玄蕃委員】

毎年、清里の花火を見に行くが、あれはまさに田んぼの中から上がっている。

例えば、他のところではどのように処理しているのか、参考にしてみたい。

清里区こそ、終わった後は大変なように思う。

【日向副会長】

素材が段ボールのため、本来は溶けるようである。

【塚田実行委員長】

半年程で溶けるらしいのだが、イベントが2月の終わりであるため、トラクターを回す時期までに分解されないことが難点である。

他の地区のやり方も、参考に聞いてみたいと思う。

【青木会長】

以上で次第 2 議題「(1) 報告事項」の『雪まつり』(キャンドルイベント)開催による地域交流・地域活性化事業について」を終了する。

次に次第 2 議題「(2) 自主的審議事項」の「旧高士スポーツ広場(旧高士中学校跡地)の活用策について」に入る。事務局より説明を求める。

【山崎主事】

前回の協議会において、「自主的審議のまとめ方が見えにくい」「地域協議会にはどんな権限があるのか」といった質問が多く寄せられたため、改めて地域協議会の役割や自主的審議のまとめ方について、具体例を交えながら説明する。

- ・スクリーンを使用し、以下の内容について説明

内容① 委員の手引き(地域協議会の役割、自主的審議のまとめ方)

内容② 他区の事例紹介

内容③ 検討シートの活用策の案に応じた実現方法案

【青木会長】

今ほどの説明について、質問や感想等ある委員の発言を求める。

【松山委員】

本来であれば、こういったものは任期当初に出してほしかった。

説明を聞いて分かったこととして、旧高士スポーツ広場を活用して、「個々の事業を支援事業として挙げなさい」ということだと思った。

例えば、旧高士スポーツ広場で「体育大会をやろう」「イベントをやろう」ということである。自分はあるところをどうやって活用しようかと考えていたが、こういうことであれば、自分の思いは違っていたと思った。

来年は簡単に事が進むような気がしていた。まったく目から鱗が落ちた。

【塚田委員】

地域協議会委員になり、手引きについては、おそらく最初に説明を受けたと思う。

だが、それをしっかり理解できていなかったことが、ここまで長引かせてしまったと、非常に反省している。

最初から何となく、「何を目的に」「どうやればいいのか」という疑問はあったが、なかなかそれを言葉にする機会がなかった。自分の知識不足だったと思うが、今回改めて説明を受けて、大変よく分かった。

よく分かっただけに、そのハードルの高さもよく分かった。

残りの任期で何とかできるものかと、とても責任を感じる。

【小林センター長】

事務局より、今ほどの説明の補足である。

まず前回の協議会の時の宿題である。皆さんの「もやもや」を解消しようと、今回、説明の時間を頂いた。

実際の活動事例を交えて、写真や絵を使って分かりやすく紹介することに努め、作成したものが今ご覧いただいたスライドである。

後半はさらに踏み込んで、これらをもし高土区に当てはめるとしたら、こうなるのではないかという、事務局の仮定の提案である。

事務局が目指したのは、「委員手引き」の内容を、何とかイメージとして委員に伝え、他区の事例を紹介した後、今度は高土区地域協議会で、オリジナルな提案をしていただきたいという点である。

また、続いて補足をすると、自主的審議事項には4つのまとめ方がある。

1つは、話し合いの結果を文書で市長に意見する「意見書」というやり方である。

市内28区で、平成28年度から令和2年度までの前期4年間に自主的審議された総件数は40件であるが、このうち16件、ちょうど4割が意見書を提出したとの結果になっている。

その他に「元気事業」といって、先ほど頸城区で観光協会を立ち上げたという事例を紹介したが、これは肝を据えて・汗をかいて・体制を固めて、市と共同で事業化するものである。これは頸城区でしか事例がない。

パーセンテージにすると2.5パーセントしかない解決の方法である。

その他は、審議したが解決できなかった、または継続して審議している、或いは地域団体の活動により解決したか、地域活動支援事業によって解決したと思われる。

繰り返しになるが、地域協議会委員の有志が中心になって活動団体を作った例があったが、皆さんに「行動してください」と言っているわけではない。

スライドの後半の説明は、あくまで事務局の案であるため、これに固まらないように理解いただいた上で、議論を進めていただきたい。

【青木会長】

それでは、それぞれに今、思っていることを順に発言願いたいと思う。

【日向副会長】

自分は地域協議会 2 期目であるが、本当に芯のところは分かっていなかったということが、正直なところである。

事務局の説明を聞き、やり方は 4 通りあると思いながらも、どれでやっていくかを自分たちなりに考え、これが駄目・あれが駄目ということはないということが分かった。逆に幅が広がってしまったようにも思うが、自分たちなりに残りの任期で何とかまとめていくことができればと思う。

少しでも前に進みたいと思っている。

【上野委員】

自分たちの思いが通じたのか、それとも事務局の考えが自分たちを助けてくれたのか、まずは事務局に感謝する。

また、これからいろいろと自主的審議事項について考えていかなければならないと思う。

まずは 1 歩前進したと自分は考えている。今後も皆で共に 1 歩ずつ進んでいきたいと思っている。

【玄蕃委員】

すごく深いと思った。深くなってきたということが実感である。

実際に行動に移すということになると、夢だけ語ってはられない。他区では実行部隊として動いている委員もいることを知った。

これまでに出てきたすべての意見を、一気に解決することは難しい。

まずはどこから始めるのかということで、何か一つ取っ掛かりがあれば、そこから人の輪が広がるような気がする。

何かやった時に、「これもやってみよう」という意見が出ればそこから広がるし、「やりたい人は手を挙げて」みたいなやり方もあると思う。

そういった手法も含めて、もう少し詰めていけばよい。

題材はいっぱい挙げていただいているので、検討してみればよいと思っている。

【杉田委員】

これまでに出版されている意見を、説明にあった 4 つの方法で分類してみてもどうか。振り分けというか、分類してはどうかと考えている。

【立入委員】

以前から地域協議会はやはり会議体だと思っており、会議体だからこそ難しい部分

があると思う。

そういった中で、本日の説明を聞き、非常に腑に落ちた。諮問機関という立ち位置に納得した部分がある。

過去 2 回、意見交換会を行っていろいろな人から意見をもらったが、やはりどの意見も素晴らしいと思っている。

ただ共通している思いとしては、「旧高士スポーツ広場を新たな活用方法で地域活性化したい」ということが 1 番なのだと思う。

ただ、出た意見の中からどれか 1 つを抽出するということは、どうしても難しい。

それは地域協議会のような会議体ではなかなか難しいということが、2 回の意見交換を行って感じたことである。

今後の話としては、行政・大学・民間・民間業者等が連携して、実行部隊を作ってもよいと思う。

その中で、「現在、高士地区ではこういったことを行っている」と活動を周知して、大きな輪を作っていくような動きが理想かと思っている。

【田中委員】

自分も当初は「広場を活用して運動会を行う」程度に思っていたが、いろいろな話を聞くとますます難しいと感じている。事務局から 4 つの方法について説明があったが、どのようにして、どれに当てはめていくのか、これから考えていかなければならないと思った。

【塚田委員】

事務局に大変感謝する。

今度は委員として、頑張らなければならないと感じている。

【樋口委員】

以前までもやもやしていたものが、少しは見えてきたような気がしている。

これから委員が一緒になり、向かっていくことができればと思っている。

【松山委員】

例えば広場で個々の事業をするときに、自分がまるで頭になかったのは、あそこに集まるまでの道路である。あの狭い道路を拡幅するとなると、自分達ではどうにもならないことだと思う。

それで、例えば活用案で出ている「芝生広場」や「運動会の開催」のために最低限

何が必要かという、それはトイレなどの問題を解消すればいいだけであって、あとは個々の事業として支援事業で行えばよい。自分はそう思った。

それから高士ルミネの花火について、自分は次の年からスポーツ広場でやってはどうかとっていたが、先ほどの話で直径 500 メートルも使うとなると、これはまた考えなくてはならないと思っている。

広場の活用については、野球場の段差と、既存の建物を除去したところをどうするかということだと思う。

それだけを考えてとなると、そんなに面倒ではない。

企画書を作って、叩いて叩いて、あと 2 年間でそのくらいのことができれば最高だと思う。

必ず前に進むと思う。

【高橋副会長】

事務局から素晴らしいまとめ方をしていただき、先が見えたと思っている。

地区の人からいただいた、いろいろな立場の意見を、今度は我々で集約しなければならない。

集約した結果を、説明にあった 4 つの方法に組み入れて、残りの任期の中でベストなことが 1 つでもできればよいと思っている。

先がうっすらと見えてきたと思い、安心している。

【青木会長】

事務局の努力により、ほぼ全員が一線に並べたというか、何をやらなければならないのか、どういった手法があるのか、そのためにはどうすればよいのかということが理解できたと思う。

あとは、すべてのテーマができるわけではないため、どんなテーマに絞るのか、そのテーマをどこに当てはめていけばよいのかを考えていく必要があると思う。

地域だけで行えるもの・地域活動支援事業を活用したほうがよいもの等、これから協議できればと思う。

今後の進め方については、委員の意見や感想をもとに正副会長と事務局で相談の上、次回の地域協議会にて提案したいと思う。

以上で次第 2 議題「(2) 自主的審議事項」の「旧高士スポーツ広場（旧高士中学校跡地）の活用策について」を終了する。

次に次第3「その他」の「(1) 次回開催日の確認等」に入る。

— 日程調整 —

- ・次回の協議会：1月20日（木） 午後6時30分から 高士地区公民館 大会議室
- ・内容：自主的審議

【高橋副会長】

- ・閉会の挨拶

【青木会長】

- ・会議の閉会を宣言

9 問合せ先

自治・市民環境部 自治・地域振興課 中部まちづくりセンター

TEL：025-526-1690

E-mail：chubu-machi@city.joetsu.lg.jp

10 その他

別添の会議資料もあわせてご覧ください。